

学園の今を伝える立正大学学園新聞

RISSHO UNIVERSITY NEWS

P2 さらなる高みへ!立正スピリッツ

P3 2024ミス立正・
ミスター立正が決定!

P5 輝く人

ビーチサッカー日本代表として世界で戦う立正生

P9 文書館だより 懐かしの熊谷キャンパス学生寮

Vol. 160
Winter 2025

謹んで新春をお祝い申し上げます

立正から世界へ! パラ五輪金メダリスト長谷川選手



 **立正大学**
「モラリスト×エキスパート」を育む。

品川キャンパス 〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 / Tel.03-3492-5250

熊谷キャンパス 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700 / Tel.048-536-6010

Website

学園新聞Web版はこちらから

立正大学マガジン



立正生・卒業生の活躍

卒業生

パリ2024パラリンピックで悲願の金メダル獲得！熊谷キャンパスで報告会を開催

パリ2024パラリンピック
車いすラグビー日本代表 はせがわ ゆうき 長谷川勇基さん(2016年社会福祉学部卒業)

2024年8月から9月にかけて開催されたパリ2024パラリンピックにおいて、本学社会福祉学部卒業生の長谷川勇基さん(BLITZ所属)が車いすラグビー日本代表として出場し、見事に金メダルを獲得しました。長谷川さんは東京2020パラリンピックの銅メダルに続き、2大会連続でのメダル獲得となりました。

同年11月6日には熊谷キャンパスへ来校し、金メダル報告会を実施しました。当日は社会福祉学部の学生をはじめ、多くの学生や教職員が参加し、盛大な歓声と拍手に包まれました。



長谷川さん報告会の様子

パラリンピックの舞台に立つ前と後で、自分自身や競技に対する考え方に変化はありましたか？

緊張や不安につながる可能性がある中で、自分の中でパラリンピックだからといって特別視しないように心がけています。なので、生涯現役で活動している中での一大会という位置付けだと思って取り組んでいます。

これから車いすラグビーを初めて見る人へ、車いすラグビーの競技としての魅力や、他のスポーツと異なる特徴を教えてください。

まずは醍醐味でもあるタックルの音や衝撃に魅了されてほしいです。特徴としては、男女混合であることが挙げられます。時代の先駆けとなれる魅力的なスポーツだだと思います。

パラリンピアンとして、今後目指したい目標や夢を教えてください。

より多くの人にこの競技を知ってもらい、楽しんでほしいので、普及活動に力を入れていきたいです。金メダルを一過性のものにしないよう、次世代の育成についても同様です。

パリパラリンピックでの成功を受けて、本学の学生や読者に向けて伝えたいメッセージはありますか？

金メダルは1つの努力の証として残りますが、それで人生が変わるわけではないと感じています。何かを成し遂げた後にどう行動し発信するのか、次は何に挑むのか。結果だけでなく、そこにたどり着くまでの過程を大切にできると成長の度合いが大きく変わると思います。

とはいえ、息抜きや楽しむことも絶対に必要です。学生の間にそういった人生のバランス感覚を養って、自分なりのエキスパートを目指して頑張ってください。応援しています！



長谷川 勇基さん
(BLITZ所属)

サッカー部

シーズン最多 7名のJリーガーが誕生

2024年度は、本学からシーズン最多となる7名のJリーガーを輩出することができました。

今後、Jリーグという大舞台でどのような成長を遂げ、素晴らしいプレーを見せてくれるのか心から期待と応援の気持ちを寄せています。頑張れ！立正生！



左から：熊倉匠、吉野陽翔、田中誠太郎、川上航立、多田圭佑、ジョーンズ・レイ、宮崎海冬

Jリーグ内定者

くまくら たくみ GK 熊倉 匠 (データサイエンス学部4年) 鹿児島ユナイテッド内定 (J2)	かわかみ こうたつ MF 川上 航立 (データサイエンス学部4年) 水戸ホーリーホック内定 (J2)
ジョーンズ・レイ GK ジョーンズ・レイ (データサイエンス学部4年) 藤枝MYFC内定 (J2)	よしの はると MF 吉野 陽翔 (データサイエンス学部4年) 栃木SC内定 (J2)
みやざき かいと DF 宮崎 海冬 (データサイエンス学部4年) ツエーゲン金沢 (J3)	ただ けいすけ FW 多田 圭佑 (データサイエンス学部4年) 水戸ホーリーホック (J2)
たなか せいたろう DF 田中 誠太郎 (データサイエンス学部4年) テゲバジャーロ宮崎 (J3)	

卒業生

西口文也氏 埼玉西武ライオンズ監督に就任

このたび、本学卒業生の西口文也さん(1995年法学部卒業)が、プロ野球チーム埼玉西武ライオンズの監督に就任されました。

これは本学にとって初めての快挙であり、本学一丸となってお祝い申し上げます。今後のご健闘を祈念し、ますますのご活躍を本学としても応援してまいります！



©SEIBU Lions



就活

セガサミー会社訪問へ行ってきました！



立正大学は、2023年よりセガサミーホールディングス株式会社(本社：東京都品川区西品川)が運営するDリーグ所属プロダンスチーム、「SEGA SAMMY LUX」のオフィシャルパートナーです。このパートナーシップに基づき、9月2日に本社ライブラリースペースにて、大学1、2年生のキャリア教育を目的とした会社見学、社員懇談会を実施しました。

エンターテインメント業界の解説から始まり、セガサミーホールディングス社のビジョンと、社員のみなさまの働き方、働く環境の改善など、「楽しい」を作り出す様々な工夫についてご紹介いただきました。

社員様との懇談会では、5部門(広報、経理、人事、ITソリューション、サステナビリティ)の若手社員のみなさまに大学時代の経験と今の仕事の関わりをそれぞれお話いただき、プログラムの最後には、SEGA SAMMY LUXの選手12名全員がサプライズ登壇、学生と交流いただきました。



2024年11月2・3日に大学祭を開催しました！

今年も橘花祭と星霜祭が開かれ、両キャンパスともに大勢の入場者でにぎわいました。（※熊谷キャンパスは2日のみ開催）

第59回 橘花祭(品川キャンパス)



雨天でも大盛況だった模擬店



学生による模擬店「モナジュエル(ゼリー飲料)」

第37回 星霜祭(熊谷キャンパス)



書道部制作「星霜祭」



星霜祭実行委員会のみなさん



橘花祭実行委員会主催の緑日の様子



当日は橘花祭を案内する横断幕・懸垂幕が掲出されました



自衛隊による演奏



大盛況だった野菜販売



2024ミス立正・ミスター立正が決定！

11月2日、石橋湛山記念講堂にてミス・ミスターコンテストが開催されました。
エントリーNo.1の船見芽依さん、エントリーNo.2の岩村怜河さんがグランプリに輝きました。

コンテスト当日は、自己PRのほか、「旅行コーデ」をテーマにした私服披露も実施。外部サイト「MISCOLLE」を使用したWeb投票・SNSのいいね数、現地で行われた当日投票により、グランプリは船見さん・岩村さん、準グランプリにはエントリーNo.3の八幡はるかさん(社会福祉学部3年)、エントリーNo.1の天坂風太さん(経営学部1年)に決定しました。

グランプリ受賞者のコメント



エントリーNo.1
船見 芽依さん
(法学部4年)

新しいことに挑戦したいという想いで挑んだミスコングランプリをいただけて本当にうれしいです。応援してくださったみなさま、運営のみなさま、素晴らしい舞台を創ってくださった全ての人に心から感謝の気持ちでいっぱいです！



エントリーNo.2
岩村 怜河さん
(経営学部4年)

この度グランプリを受賞させていただきました。僕1人の力では優勝はできませんでした。応援してくれた方々、サポートして下さったミスコン企画の方々のご協力があったからこそです。本当にありがとうございました！



エントリーNo.2 山本 花菜さん (法学部3年)
エントリーNo.3 八幡 はるかさん (社会福祉学部3年)
エントリーNo.4 金井 桃花さん (心理学部1年)
エントリーNo.1 天坂 風太さん (経営学部1年)
エントリーNo.3 濱崎 希歩さん (法学部1年)
エントリーNo.4 伊藤 航貴さん (文学部4年)





と の ん こ の み 外木 好美 准教授

所 属：経済学部
研究分野：経済成長、企業価値、
無形資産、
企業の設備投資行動

Profile

博士（経済学、一橋大学大学院）。内閣府経済社会総合研究所 景気統計部 事務官、神奈川大学経済学部助教、立正大学 経済学部 専任講師を経て2020年4月より現職。

趣味／
凹凸地形散歩、フィールドワーク、中小河川や用水をたどって散歩するのが楽しいです！

休日の過ごし方／
睡眠、だらだら過ごす

好きなスポーツ／
外あそび、散歩、サイクリング、街の中に新しい発見がいっぱい！

犬派・猫派／
猫派

地域とのつながりから経済の動きを考察できる そんな学びを目指す

Q1 どんな研究をしているの？

企業の財務データを、経済学的な視点で統計分析する研究をしています。特に、企業の設備投資や企業価値、経済成長について研究してきました。最近では、経済成長のエンジンとなりえる「無形資産」について、研究を進めています。「無形資産」とは、人的資源や経営プロセス、ブランドといった形を持たない資産のことです。企業に限らず、地域にも地域のつながり（地域コミュニティ）といった「無形資産」があります。そこで、ゼミナールでは、立正大学がある品川区で、地域イベントにボランティア参加しながら実地で学ぶ、フィールドワークを行っています。



ゼミ生が参加した地域イベントボランティアの様子

Q2 その研究を始めようと思ったきっかけは？

もともと企業活動に興味があったのと、数学や物理が他の科目よりも好きだったこともあり、経済学部に入學しました。企業を分析するには、企業活動が記録された財務諸表を読み解く必要があります。そこで、学部生の時に、簿記の資格取得の勉強に取り組みました。資格勉強を進めるにつれ、記帳されたデータを科学的に分析できるようになりたいと思うようになり、大学院に進学しました。大学院では、経済理論と経済統計を中心に学び、企業の設備投資や企業価値、経済成長を分析するようになりました。

Q3 学生には4年間で どのようなことを学んでほしい？

経済学部に入ったからには、身近な出来事から、経済の動きを感じ取れるようになってほしいです。円安になった背景には、どんな経済メカニズムがあるのかな？ICT化やDX化によって私たちの生活は大きく変化したけれど、経済にどれだけのインパクトがあったのだろう？等々。日々の出来事を大きな視点で考察できるようにになれば、変化が大きい経済社会で賢く渡り歩くことができると思います。

そして、経済学部に限らず、立正大学生にはぜひ立正大学周辺の何かしらの地域活動にかかわってほしいと思っています。地域の人々のネットワークが網の目のように広がっていて、ひとたびつながると、世界がぐっと広がります。SNSで簡単につながれる時代だからこそ、人と直につながる価値や意味を再確認してもらえたらと思います。

立正大学学園の学園新聞に広告を掲載しませんか？

発行部数
10万部

広告サイズ	掲載料金
4色／横252mm×縦95mm	220,000円
4色／横126mm×縦95mm	110,000円

お申し込みの際は、URL、もしくは二次元バーコードから、掲載までの流れと、広告掲載におけるガイドラインをご確認の上、お申し込みください。

立正大学学園新聞は年3回発行している学園情報誌です。
学内のトピックスや同窓生の活躍などを掲載しています。
卒業生、在校生と保護者、関連学校へ郵送でお届けし、キャンパス内でも配布しています。

〈お問い合わせ・お申し込みはこちら〉

立正大学広報課 新聞編集係

<https://www.ris.ac.jp/magazine/ad.php>



メールのタイトルを「立正大学学園新聞 広告掲載申込み」としてご連絡ください。



みんなのゼミ自慢

「生きた仏教」の学び 多面的な視野から人生の指針を発見する

はら しん じょう
原 慎定 先生
(仏教学部)



記事：まつしろ めぐる
松代 円右さん(仏教学部宗学科法華仏教コース3年)
福岡県立田川高等学校
はせがわ ゆりか
長谷川 夕里花さん(仏教学部宗学科日本仏教コース4年)
神奈川県立麻生総合高等学校



原ゼミ

仏教学部では3・4年生必修で合同のゼミが開設されています。原ゼミでは近年、「人生における苦難の意義を考える」、「法華経信仰のダイナミズムに迫る」、「人生の意味と目的を考える」、「日蓮聖人の不屈の生涯と人間的な魅力に迫る」というテーマに基づき、文献の輪読を通して学びを深めています。また、各自の卒業論文のテーマ、進捗状況の発表や意見交換などもおこないます。

3年生の私は、寺院に生まれるというご縁をいただき、

僧侶となるために勉強しています。ゼミの学修では、法華経や日蓮聖人の教えを単なる知識としてだけではなく、どのようにして日常生活に生かすことができるのかという「生きた仏教」の視点から学んでいます。また、日本仏教の他宗派の教えやキリスト教との比較によって、客観的な視点から学べるのも原ゼミの魅力です。卒業論文のテーマを決める上でも、ゼミでの学びからヒントを得ることができました。将来、「忘己利他」を実践することのできる僧侶を目指して、

引き続き「生きた仏教」をより深く学んでいきたいと考えています。

4年生の私は、一般家庭で育ち、これまで宗教には縁がありませんでしたが、ゼミでの学びを通して法華経や日蓮聖人の教えへの理解を深めています。原ゼミの魅力的な点は、学問の基礎的な方法と多面的な視野を身につけることによって、自分の価値観を客観的に見つめ直すことができることです。私は以前、人生の方向性が定まらず、悩

んでいた時期がありました。しかし、ゼミで仏教の教えを学んでいく中で、より広い視野から物事を捉えられるようになり、今後の人生の指針を得ることができました。また、これまで悩んでいた「何を大切に生きていくべきか」という問いにも、自分なりの答えを持つことができました。卒業論文では、「仏教においての本当の幸福とはなにか」というテーマに取り組んでいて、様々な発見があることに喜びを感じています。



昨年度卒業のゼミ生2名が成績優秀により、学長賞と日蓮宗管長賞を受賞しました

活躍する校友 /

立正人

RISSHO BITO

ビーチサッカー日本代表

おお たに りく と
大谷 陸斗さん
法学部 3年



アクロバティックなプレーに注目！ ビーチサッカーの魅力を発信していきたい

本学法学部に通う大谷さんは、ビーチサッカー日本代表として世界で活躍する立正生です。今回は、学業とビーチサッカーの両立、そしてビーチサッカーへの想いについてお話を伺いました。

ービーチサッカーを始めたきっかけ

高校までサッカーをしていましたが、プロになれず辞めようと思っていました。そんな時、「辞めるのはもったいない、ビーチサッカーをやらない?」と、指導者から勧められたのがきっかけです。それまではビーチサッカーの存在すら知らず、砂浜の環境に慣れるのに半年近くかかりました。

ービーチサッカーの魅力

ビーチサッカーは『アクロバティックなプレー』が多く、サッカーとは違った楽しさがあります。オーバーヘッドでのシュートが多かったり、パスやドリブルも砂の上では難しかったため、リフティングを駆使します。選手が足技を使うのも見どころです！



ー大学生活とビーチサッカーとの両立について

海外遠征も多く、授業に出られない日もあります。空きコマを作らず、一日でまとめて授業を受けられるようにしたり、遠征先の空き時間を活用してレポートを進めたりして、勉強に遅れないよう工夫しています。先生方とは時差を考慮しながら連絡を取り、忙しい中でも単位を落とさず、学業も手を抜かないよう努力しています。

ービーチサッカー普及への想い

ビーチサッカーはマイナースポーツと言えます。ワールドカップの日本戦でもテレビ放映はなく、学内でも知っている人は多くいません。自分ができることは限られていますが、自分が発信源となり、学生・同年代の人がビーチサッカーを知るきっかけ作りや、ビーチサッカーの知名度を少しでも上げられる取り組みをしていきたいです。

ー進路を考える立正生にメッセージ

「まずは何でも『やってみる』ことが大切です。僕もビーチサッカーを始めたのは勧められたからですが、それがきっかけで日本代表になりました。」と、大谷さんは挑戦する重要性を強調します。「アクロバティックなプレーの多さに、初めて観る方も楽しめること間違いなしです。この記事をきっかけにぜひ現地へ来てみてください!そしてビーチサッカー日本代表の応援もよろしくお願いします!」と締めくくってくれました。

挑戦し続ける大谷さんの姿勢は、学生やスポーツファンに勇気と刺激を与え、これからもビーチサッカーの魅力を伝え続けてくれるでしょう。



学部あれこれ

立正大学各学部から届いたレポートです！

法学部

他大学と交流！農林水産省主催「未来へつなぐ食のバトン」勉強会

農林水産省関東農政局東京都拠点主催で、食や環境に対して関心を持つ学生が集まり、「みどりの食料システム戦略」について議論する勉強会『学生対象「未来へつなぐ食のバトン」勉強会～みどりの食料システム戦略～』が開かれました。法学部生を含む、関東・関西の大学・高校6校が参加し、学生同士が会場とオンラインで交流しました。

勉強会には、法学部開講のフィールドワーク科目「公務員実務フィールドワーク」を履修する学生が参加、農林水産省職員から「みどりの食料システム戦略」について、未来の食と農業に関する法律や施策などについての講演を聴いたあと、学生主体のグループワークと発表を行いました。

学生は他大学生との混合チームで5つに分かれ、

「私たちの未来へのバトン」をテーマに話し合い、未来への宣言やスローガンを模造紙にまとめました。学生たちは活発に意見を出し合い、みんなで協力してグループワークを進めていました。そのあとの発表は、講演会の感想からはじまり、模造紙を公開して検討した内容を発表しました。オンライン参加の学生にも、会場から話題を振ったり、発言してもらったりと、和気あいあいの楽しいグループワークになりました。

5グループの発表では、それぞれ様々な視点から、食や農に関する課題の解決策が提案され、学生同士で共有し合うことができました。今回の勉強会は、学生がこれからの食と農の未来を考えるきっかけになっただけでなく、身近なことから法律を考えたり、他大学生と交流したりと、フィールドワークとして充実した有

意義なものになりました。



実際の「未来へつなぐ食のバトン」勉強会の様子

心理学部

公開講座

「よさこい系祭りにみる日常と非日常の新しい形～心理学と社会学の対話～」を開催

品川区、日本コミュニティ心理学会、立正大学心理学部との共催で、2024年10月12日に品川キャンパス1151教室において、公開講座が開催されました。宗教社会学・文化社会学を専門とされ、専門社会調査士でもある芳賀学教授（上智大学総合人間科学部社会学科）と、コミュニティ心理学を専門とされ、臨床心理士・公認心理師でもある久田満特任教授（本学心理学部臨床心理学科）が本講座の講師を担当しました。この講座は、「よさこい系祭りにみる日常と非日常の新しい形～心理学と社会学の対話～」と題して行われ、よさこい系祭りなど、若者を中心に支持され拡大している新種の祭りを取り上げて、現代社会における日常と非日常の新たな関係について、宗教社会学とコミュニティ心理学との対話を通して理解を深めていく

形で実施されました。

当日は、伝統的な日本社会において日常（ケ）と非日常（ハレ）は分離されてきたけれども、現代社会では、非日常を構成していたご馳走・お洒落な服装・音楽・踊り・酒などの諸活動の多くは日常的に存在するようになって、日常（ケ）の中に非日常（ハレ）が充満している。このことを著名な都市社会学者である松平誠が「ハレハレ社会」と呼んだことが芳賀教授と久田教授より説明されました。

一方で、伝統的な非日常を吸収した新たな日常の拡大は、新たな非日常を生み出してもいることが熱く語られました。38名の受講者も、両教授の講演・対話を楽しまれ、盛況のうちに幕を閉じました。



よさこい系祭りにみる日常と非日常の新しい形について語る芳賀学教授

地球環境科学部

5年ぶりの海外フィールドワークを
ウズベキスタンで実施

地球環境科学部地理学科では、新型コロナウイルス拡大以降実施していなかった海外での実習科目である「海外調査法およびフィールドワーク」を再開しました。2024年度は中央アジアのウズベキスタンを対象地域として実施し、全8日間の日程で首都タシケントから南部の中心都市テルメズまでを縦断しました。

地理学科では、地域の現状を把握しその課題や特徴を学ぶため、現地を訪問し自然環境や景観、文化を観察することを重視しています。また、単に施設や自然環境の見学を行うだけでなく、個人やグループでテーマを設定して現地調査を行い、理解を深めています。

本年度は「ウズベキスタン共和国における自然環境と人々の暮らし」をテーマとして、東アジアとヨーロッパ、中東地域の間位置し、日本と異なる気候や地形、

生活文化を有する中央アジア地域を理解するという目的で行程を設定しました。総勢7名の学生たちは、タシケントの都市構造・交通ネットワークやサマルカンドで発生した洪水の被害状況、ウズベキスタン政府が近年注力している観光業などに関する現地調査を実施しました。

現地では、多くの観光客が訪れる都市部だけでなく、観光客が訪れることが少ない地域にも足を運び、自分たちの目で実際の地域の姿を観察しました。また、海外で自らの興味関心に応じた現地調査を行ったことは、一人ひとりの学生にとってかけがえのない経験となったに違いありません。学生たちには、海外でのフィールドワークの経験を、自分たちが住んでいる地域の特徴や生活文化を捉え直す機会としてほしいと思います。



本学の協定校であるタシケント国立東洋学大学を訪問しました。写真は日本語学科の先生と交流した際のものです



立正大学ウズベキスタン学術調査隊が調査を実施した、仏教遺跡にも訪問しました

※全て撮影：川添 航（地球環境科学部地理学科）



RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

立正大学付属立正中学校・高等学校

第77回 立正祭盛大に開催される



チアリーディング部



屋台：射的の様子

2024年9月28日～29日、コロナ禍の制約も解除され通常開催となりました。両日も晴天に恵まれ多くのお客様が来校し、盛大な立正祭となりました。

今年のテーマは、生徒たちの立正祭への取り組みが“きれいな花がたくさん咲き乱れるように”という想いを込めて、「百花繚乱」になりました。

中学生の全学年と、高校生の有志による「演劇」発表がありました。衣装や舞台作り、脚本の準備や練習も入念になされ、観客からはたくさんの拍手喝采を浴びていました。また高校1・2年生を中心に縁日、ゲーム、喫茶店などが多く出店され、賑わっていました。部活動は体操部、チアリーディング部、空手道部、吹奏楽部の演技・発表が行われました。

1日目に高校生による中夜祭が行われ、有志によるイベントで大きな盛り上がりを見せて、大成功のうちに終わりました。校舎前の広場には、3台のキッチンカーによる、クレープ、ケバブ、吉野家の牛丼販売があり、こちらも長蛇の列ができていました。師親会では恒例のカレー、どら焼き、バザー販売が行われ、ランチルームに入りきれないほどの来場者が見られました。

生徒たちも、それぞれのイベント成功に向けて早くから準備にあたり、仲間たちと力を合わせた完成度の高い立正祭となり、大きな達成感を味わえたことでしょう。



大盛況だったクラスの出し物「コーヒーカップ」

先生の素顔

さいとう ひとみ

齋藤 瞳先生(国語科)



立正中学高校から立正大学文学部を卒業後、都内の私立中高に国語科教師として2年間勤務し、縁があって母校に戻り今年で3年目になりました。中学1年生の副担任で水泳部の顧問を受け持ち、授業では書写・書道と小論文を担当しています。

幼い頃から文字をきれいに書くことが好きで、自然と学校生活も楽しくなり、学校がますます好きになりました。中高時代は吹奏楽部に所属し、フルートを担当していました。部活動を通じて、1つのことを築き上げたときの達成感は今でも覚えています。また、技術面以外でも上下関係や仲間との絆の大切さを学びました。

中高時代は大変有意義な時間を過ごすことができ、多くの先生方にお世話になったので、今度は私が生徒の心の支えになれる教員を目指していきたいと思っています。一人ひとりに合った指導をし、たとえ文字を書くことが苦手な生徒でも自信がつくような授業作りを常に心がけています。

同じ立正生として、生徒には自分のためだけでなく、人のために率先して動けるような優しい気持ちを持ち、またいつまでも人とのつながりを大切にできる人間に成長してほしいと願っています。



RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

立正大学淞南高等学校

草場選手、東アジアユース大会の日本代表に堂々選出！

立正大学淞南高等学校射撃部から、昨年の鎌田選手に続き新たな日本代表が誕生しました。9月1日にナショナルトレーニングセンターで行われた東アジアユース大会の日本代表選考会で、2年生の草場胡美選手が堂々の1位通過を果たしました。当日はオリンピックと同じ舞台で記録会が行われ、緊張しながらも第5シリーズで見事95点を記録、最終的に548点で1位を獲得しました。12月6日からの代表合宿を経て、シンガポールで12月12日から行われる本大会で草場選手がどのような戦いを見せるのか、期待が高まります。

世界の舞台での草場選手の活躍を全校で応援しています！ガンバレ！草場選手！

(2024年12月9日現在)

JOCジュニアオリンピックで快挙！ 草場選手・長友選手が入賞

9月6日から8日まで埼玉県長瀬総合射撃場で開催されたJOCジュニアオリンピック大会兼第34回ISSFジュニアスポーツ射撃選手権で、本校射撃部の2年生、草場胡美選手と長友真穂選手が見事入賞を果たしました。草場選手は昨年の優勝に続き、エアピストル女子60発競技で5位入賞を果たし、安定した実力を証明しました。長友選手も初出場ながらビームライフル女子60発競技で8位入賞と堂々たる結果を残しました。その他にもビームピストルの三木君・横山君、エアライフルの藤井さん、ビームライフルの小山君がそれぞれ健闘し、全員が最高のパフォーマンスを披露。部全体での成長と今後の活躍が大いに期待します。



部員同士で切磋琢磨。仲間でありライバルです



選考会で堂々1位通過する草場選手



ナショナルトレーニングセンターでの選考会

01 しながわ防災学校×立正大学 防災ワークショップ

9月20日に元谷豊氏(しながわ防災学校)、10月5日に島津弘教授(本学地球環境科学部)を講師とした防災ワークショップを品川区との共催で開催しました。グループワークを交えながら地域防災について学ぶ内容となっており、年代・性別問わず様々な方にご参加いただきました。参加者からは「積極的に地域の人と協力しながら、避難所の運営をする大切さを再確認した」「ハザードマップを読み解きながら危険な場所を確認し、新たな視点で災害に備えなければならないことに気づきました」という感想があり、また来年度も開催して欲しいという声が多数聞かれました。



しながわ防災×立正大学 防災WS

02 【立正大学×城南信用金庫】 (特別講演)『地域に寄り添う信金だからこそ できるネットワークでつむぐ地域創生』

9月27日、城南信用金庫(本店:品川区、理事長:林 稔 以下、「城南信金」と)との共催で、『地域に寄り添う信金だからこそできるネットワークでつむぐ地域創生』と題した特別講演とパネルディスカッションを開催しました。城南信金とは、2021年に同信金が事務局を務める「よい仕事おこしフェア実行委員会」と包括連携協定を結び、フェアへの出展や育英基金などの面で協力体制を築いてきました。
今回は城南信金の前理事長の川本恭治氏(現相談役)による特別講演『信用金庫だからできる地域創生』と、川本氏、品川区商店街連合会会長の亀井哲郎氏、東急総研フェロー主席研究員の太田雅文氏、本学名誉教授の佐藤一義先生による『駅ごとで地域に関わる関係人口の創出』と題したパネルディスカッションを行いました。聴講学生からは「地域との意識的な繋がり大切さを学んだ」「信金の情報発信が中小企業の人気を引き出していることに魅力を感じた」という声が聞かれました。



立正大学×城南信用金庫 パネルディスカッション

03 TJUP共同FD/SD研修セミナー『大規模自然災害から学ぶリスクマネジメント』を開催

8月28日に熊谷キャンパスで、TJUP共同FD/SD研修セミナー『大規模自然災害から学ぶリスクマネジメント』を開催しました。TJUPとは、地域活性化や地域課題の解決を目指し活動している埼玉県内の大学間連携プラットフォームです。本FD・SDはその活動の一環として、大学および地域の防災・減災に繋げることを目的に本学が企画・実施しました。
講演・事例発表では後藤真太郎教授(地球環境科学部)が専門家としての知見を解説した他、大東文化大学と本学の学生が日頃取り組んでいる地域防災活動の報告を行いました。その後の意見交換会では、新井利民教授(社会福祉学部)、外木好美准教授(経済学部)から被災地への学生派遣や近隣地域との連携に関する取組みも紹介されました。多くの地域住民にも来場いただき、安心安全な社会を実現させるために参加者がそれぞれの立場でできることを考える機会となりました。



意見交換会風景



後藤先生発表

教職・資格教育センター

ホームカミングデー 教職の集い紹介

「ホームカミングデー」とは、立正大学卒業生に母校にお越しいただき、往時を懐かしみ、現在の学生とも懇談してもらう校友会主催のイベントです。



2024年11月2日に品川キャンパスで開催された「ホームカミングデー」では教職関係者の部屋を設けました。教職に就かれているみなさま、すでに教職を退かれたみなさまにお集まりいただき、旧交を温めていただくとともに、現在教職を目指して学業に励んでいる現役の学生との交流の機会となりました。

本学は戦前から、多くの学校の先生を世に送り出してきた歴史があり、教育界における本学出身者の地歩は大変大きなものがあります。教育現場で活躍されてきた先輩のみなさま方の経験を、若手の現場教員、そして本学で教職課程を履修している学生に共有できる素晴らしい機会を持つことができました。

student report //

今回のホームカミングデーを通して、教職に就くための勉強やそのサポートについて、さらには、実際に現場で働いている先生のリアルな話や授業準備や先生が何に気をつけて準備してるかなどの内実も知ることができました。また、講演直後の質疑応答の時間や交歓会では大学の先生や現役の教員、院生、学部生などさまざまな立場から多様な意見や主張を聞くことができ、より一層教職そのもののイメージを掴むことができました。(神尾柊斗 仏教学部2年)

スタッフコメント

今年度の「教職の集い」では、多くの交流が見られ、大変有意義な時間を過ごすことができました。卒業生の先輩方からの具体的な経験談を通じて、自分の目指すべき教員像がさらに明確になったと感じています。準備段階では先生方のサポートを受けながら、教職を目指す仲間同士で意見交換をする場も多く設けられ、とても心強かったです。こうした交流を通じて、教職への意識が一層高まる貴重な経験となりました。(佐伯夢実 文学部3年)

日時:2024年11月2日

会場:品川キャンパス 9号館3階 932教室・933教室

第1部

記念講演、講演会
10:30~12:15

◆記念講演会

演題:大学での学びを生かしたければ、ぜひ教員へ

講師:岩谷 宣行 先生

(2002年地球環境科学部 地理学科卒業 および 2004年地球環境科学研究科 地理空間システム学専攻修士前期課程修了)
現在、秋田県教育庁で指導主事を務める。

◆若手教員による講演

・徳井 広聖 先生(2024年社会福祉学部社会福祉学科卒業)

現在、埼玉県公立中学校で特別支援学級担任。

・平岩 大 先生(2024年文学部史学科卒業)

現在、福岡県公立中学校で社会を担当。

・菅原 一輝 先生(2017年文学研究科社会学専攻修士課程修了)

埼玉県立高校で地歴公民を担当。

第2部

実際の教育現場から
13:30~14:45

◆現在の教員採用試験対策の紹介

◆卒業生の授業実践の様子

授業の様子を取材したものをビデオで紹介しました。

・遠藤 広太 先生 (2021年経済学部経済学科卒業)

高知県公立中学校で社会を担当。

・教職サークル「モギ授業の会」のOB/OG

「モギ授業の会」2024年度代表 西山 大地さん(文学研究科史学専攻修士課程1年)

※「モギ授業の会」は在学生を主体とする公認サークルで、教職を目指す学生たちの学びの場の創設と、在学生と卒業生の連携づくりを目指して活動しています。今回は、教員生活1年目の卒業生たちが、私立高校や特別支援学校での経験や採用までの経緯をお話しました。

◆教職履修者より

◆教職履修学生相談

第3部

交歓会
15:00 ~16:00

◆交歓会では、ざっくばらんに、卒業生、在学生が交流し、教育現場の状況や採用試験対策など让学生在卒業生に聞く場となりました。なかなか交流を持つ機会のない卒業生同士も交流を行える場となりました。



Come and join us! 異文化交流体験が 未来を切り拓く！

国際交流センターでは、グローバル化する社会で活躍できる人材の育成を目指し、国内外における留学・研修プログラムやキャンパス内での国際交流、語学力向上支援を行っています。



1 海外で学ぶ 一品川キャンパスからの海外体験のすすめー ～多様な留学・研修プログラム～

2024年夏期休暇期間中に品川・熊谷キャンパスの計27名の学生が、海外短期研修プログラムに参加しました。

プログラムの1つである文化研修では、12名の学生が、協定校であるソウル中心部の東国大学校で2週間、言語や文化を学びました。平日の午前は韓国語の授業を受け、午後は文化体験や特別講義に参加しました。授業はレベル別に分かれており、自分にあった環境で学ぶことができ、キムチ作りやK-POPダンスをとおして、現地の文化を体験できるのも魅力的な点でした。また、派遣校の特徴を生かした講義や在校生で構成されたBuddyとの交流活動にも参加できました。

学生は「友人の輪が広がり、研修後もSNSで連絡を取っています」と、言語を学びながら交流を深められたようでした。充実した研修により学生の満足度も高く、「行く前はすごく不安でしたが、行った後は達成感や充実感、自信ができました」と語ってくれました。

国際交流センターでは毎年、海外短期研修や中長期留学の募集をしています。「何か新しいことに挑戦したい」「海外に興味がある」という学生は、ぜひチャレンジしてみてください！



韓国語の授業風景



現地のグルメを堪能

2 キャンパス内での国際交流 ー熊谷キャンパスにおける取り組みー ～留学生との交流をとおして、世界を学ぶ～

リすめいと Rismate: 留学生を支える心強い仲間たち

2022年に結成されたRismateは、留学生の生活サポートを行う学生チームで、留学生が新しい環境に適応しやすくするための交流活動、キャンパスや熊谷市内ツアーの実施、異文化交流イベントの企画、日常生活のサポートなどを行っています。Rismateのサポーターは、毎学期の事前・事後研修や実践をとおして、留学生と交流しながら自身も多文化理解を深め、貴重な経験を積んでいます。卒業生はサポーターの経験を生かし、教育や福祉など様々な分野で活躍しています。



Rismateにおける交流活動

地理学科と共に創る国際交流の輪

地球環境科学部地理学科と連携し、1年生の学修の基礎Ⅰで「多文化共生」をテーマにした国際共修を実施しました。この授業では、国内学生と留学生が共に学び、ディスカッションを通じて異文化理解を深め、多文化共生について当事者意識を持つことを目的としています。

また、短期留学生が地理学科1年生向け科目の地理基礎巡検（現地に赴き地域観察を行う活動）への参加をとおして、実践的に日本を理解できる学びの場を提供しています。国内学生と留学生は教室内外での交流を経験することで、グローバルな視野を広げています。



地理基礎巡検（新宿）

文書館だより

懐かしの寮生活～新生寮・白菊寮～

熊谷キャンパスが開設されたのは1967（昭和42）年のことです。その頃の熊谷市には学生向けの下宿が無く、まず宿舎を確保する必要がありました。大学がキャンパス内に建築した学生寮は、今のユニデンスの前身である新生寮（男子寮）と白菊寮（女子寮）で、その他大学周辺の民間の方々の協力により、24の委託寮を確保し、無事に新入生を迎えることができました。

新生寮と白菊寮は、現在の熊谷キャンパス1号館（ゲートプラザ）と同じく横総合計画事務所による設計で、暖房・調度品が完備されたモダンな建物でした。1967年当時の寮費は月4,000円、食費が朝夕で月6,000円ほどでした。

寮には寮監が置かれ、寮生から寮長、寮務委員が選ばれて自治的に運営されていました。寮監を担う教職員は、学生たちと生活を共にし、親元から離れて暮らす学生たちの、よき相談相手であったようです。

新生寮の卒業記念写真は、ずらりと並んだ制服姿に、寮の規律や結束力を感じますが、なぜか箒を持っていたり、サンダル履きの人もいたり、学生らしいユーモアや、寮生活の日常が垣間見えます。

また、入寮後の感想を、白菊寮の学生がこのように寄せています。「友人も出来たし、親元を離れても生活して行けるんだなあ、と、不確実ながら自信も出てきました。（中略）今はまだ慣れないせいか不自由なことも、多々あります。時には不満の捨て場に困ることさえもあります。しかし、それが私たちを向上させてくれるかと思うとまた新しい期待が、胸をわきたたせてくれるのです。」（『父兄会会報』第7号 1967年「学寮生活の感想」より抜粋）

学生寮は共同生活ならではの大変さもありますが、勉強や部活、将来のことなど悩みや夢を分かち合い、人間的に成長できる場でもありました。



広場にて卒業の記念写真



新生寮食堂



白菊寮

サッカー部

大混戦の中、
最終節まで一丸となって戦い抜く

シーズン最多、7名のJリーガー誕生

4月に開幕した関東大学サッカーリーグ戦が11月16日の最終節を以って終了となりました。毎試合において緊張感あふれる戦いが続く中、勝負所で勝ち星を逃し、最終順位は6位と不甲斐ない成績となり、『関東1部復帰』の目標を果たすことができませんでした。しかしながら、4年生中心で戦った最終節では、立教大学相手に4-0の勝利を収め、4年間の集大成となる素晴らしい試合を披露しました。

個人に目を向けると、^{ただけいすけ}多田圭佑(データサイエンス学部4年)が関東2部リーグ得点王(15得点)とベスト11(2回目)のダブル受賞となり、成果もありました。

また、7名のJリーガーを輩出することができ、シーズン最多のプロ選手誕生となり、日頃の選手の努力と仲間の協力に感謝です。

『関東1部復帰』という目標達成は、来シーズンへ持ち越しとなりました。選手たちはシーズンの振り返りをし、気持ちを切り替え、休むことなく熱くトレーニングに励んでいます。今後も、多くの方への感謝を忘れずに、選手・スタッフ全力で戦い続けます。引き続きの応援をよろしくお願いします。

最終順位表

順位	チーム	勝ち点
1	慶應義塾大学	42
2	日本体育大学	39
3	順天堂大学	37
4	法政大学	36
5	早稲田大学	35
6	立正大学	35
7	神奈川大学	30

(全 12 チーム中)



個人賞(多田圭佑)



全体写真(最終節)

ラグビー部男子

苦しいシーズンながらも
全力で立ち向かう

試合結果・日程

最終戦績

関東大学リーグ戦1部 2勝5敗 6位

- 2勝 流通経済大学(31対27)、東洋大学(27対19)
- 5敗 東海大学(5対60)、大東文化大学(22対47)、法政大学(19対34)、日本大学(32対33)、関東学院大学(34対36)

関東大学ジュニア選手権カテゴリー4 3勝2敗 3位

- 3勝 日本体育大学(42対7)、拓殖大学(72対12)、白鷗大学(45対10)
- 2敗 青山学院大学(22対26)、立教大学(22対49)

シーズン終了のご報告
(ゲームキャプテン八木)

1年間たくさんの応援ありがとうございました。「大学選手権出場」という目標は達成できず、苦しいシーズンにはなりましたが、全て出し切った結果なので後悔はないです。来年度は創部初の1部リーグ4期目ということもあり、後輩たちにいいバトンを繋げられたかなと思います。これからも立正大学ラグビー部の活躍は続きますので、引き続きご声援ご支援の程よろしくお願いします。

関東大学リーグ戦1部
プレイヤーオブザマッチ/
モストインプレッシブプレイヤー

VS流通経済大学戦

プレイヤーオブザマッチ獲得選手 ヴィリケサ・リモリモ
選出理由:

チャンスにからみ3トライしチームの勝利に貢献した

VS東海大学戦

モストインプレッシブプレイヤー獲得選手 南澤修斗
選出理由:

試合を通してアタック、ディフェンスで身体を張っていた

VS大東文化大学戦

モストインプレッシブプレイヤー獲得選手 渡邊大樹

選出理由:風上に立ってからの有効的なキック

VS法政大学戦

モストインプレッシブプレイヤー獲得選手 八木崇太

選出理由:

試合を通してアタック、ディフェンスで身体を張っていた



①流通経済大学戦でプレイヤーオブザマッチに選出されたヴィリケサ・リモリモ(データサイエンス学部2年)



②大東文化大学戦でモストインプレッシブプレイヤーに選出されたわたなべだいき渡邊大樹(データサイエンス学部1年)

ラグビー部女子

立正
目標

立正大学から世界へ

私たちラグビー部女子の目標は日本を代表する選手に1歩でも近づく事、そしてここ熊谷の地から世界へ挑戦し続けることです。

2025年に開催予定の女子15人制ワールドカップにむけて、2023年から新設された「WXV」(15人制ラグビーユニオン女子国際大会)に本学卒業生より7名が参加しました。7名は在学中から世界へ挑戦するチャンスを掴み、様々な世界大会で日本を代表する選手として活躍しています。在学も世界へ挑戦すべく、高い目標を掲げ日々のトレーニングに励んでいます。

また、国内の大会では、15人制の関東大会に立正大学単独チームとして初めて参戦することができました。関東大会は東日本地域の大学やクラブチームが例年約8チーム参加するもので、全国大会への出場を目標に関東代表の座をかけて戦いました。(2024年11月3日~2025年1月5日開催)

試合の結果は二次元コードよりご確認ください。



地域との交流

ラグビー部女子はラグビーを通じて地域社会に貢献することを大切にしています。

熊谷市教育委員会、ARUKAS熊谷と協力し、市内の小学校29校、中学校17校を対象に「タグラグビー教室*」を開き、タグラグビー授業の講師や指導コーチを務めています。また立正幼稚園とも協力しラグビーを通じた授業も行っています。授業の講師をしていくなかで、子どもたちからもたくさんのことを教えてもらいます。スポーツの普及に貢献しながら子どもたちに大きな喜びをもたらせるよう活動していきます。

クラブ等情報

硬式野球部

若手2人がベストナイン賞受賞 次シーズンへの期待高まる

我々硬式野球部は秋季リーグ戦にて、3位の成績に終わりました。

序盤から勝ち点2を取り、よい流れではあったものの大混戦となり、最終的には勝ち点3勝率0.462でリーグ3位、東都2部リーグ残留という悔しさの残る結果になりました。その悔しい思いとともに春季に向けて、さらに1部昇格への気持ちが強くなる、そんな戦いで今シーズンを終わりました。

春季リーグでは最下位、2・3部入れ替え戦と残念な結果となりましたが、応援して下さったみなさまのおかげでここまでの成績を残すことが出来ました。

まだまだ満足のいく結果ではありませんが、最上級生は後輩たちへ希望を与え、望みを託すことができたよいリーグ戦となったことを実感しています。

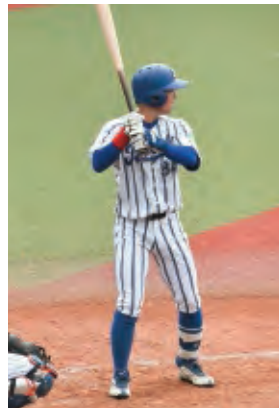
そして、今季は東都大学野球からベストナイン賞を梅田健太郎投手（データサイエンス学部4年）、西村元希外野手（データサイエンス学部1年）、三好元気外野手（データサイエンス学部1年）が受賞いたしました。梅田投手は2部リーグ最多イニングで登板し、4完投4勝利とチームの勝利に大きく貢献しました。また、西村選手は公式戦初本塁打を記録し、三好選手とともに首位打者争いを繰り広げるなど、これからのチームに希望も感じられるリーグ戦となりました。

これから更に成長し、来春に2部優勝、1部昇格を果たせるよう野球部員一同精進してまいります。

また、2024プロ野球ドラフト会議にて3名の選手がプロ志望届を提出いたしました。OBである立松由宇選手(日本生命)が千葉ロッテから6位指名をいただきました。現役選手は、残念ながら指名をいただくことができませんでしたが、悔しい思いを胸に社会人チームや独立リーグで2年後のドラフト指名を目指しますので、立正大学硬式野球部、OBを今後とも応援ください。



ベストナイン賞受賞の4年生 梅田健太郎



ベストナイン賞受賞の1年生 三好元気



ベストナイン賞受賞の1年生 西村元希

\\160号 pick up!!\\

陸上競技部
駅伝部門

箱根駅伝予選会に 12名が挑む

本駅伝部で1番大きいトラックレースは、各種目の標準記録を切った者のみ出場でき、学内出場者人数制限のある関東学生陸上選手権大会。ロードレースは東京箱根間往復大学駅伝競走伝予選会です。

2024年は5月9日から12日に関東学生陸上選手権大会（関東インカレ）が国立競技場で行われ、5名の選手が出場し、足立が予選組1着で決勝に進む見事な走りをしてくれました。足立（3000m障害）は2025年の関東学生陸上選手権大会の標準記録を既に突破しているので、決勝という大舞台でも力を発揮することを期待したいです。

11月19日東京箱根間往復大学駅伝競走予選会(箱根駅伝予選会)が立川駐屯地・昭和記念公園で行われ、14名のエントリーメンバーの中から12名が出走しました。
エントリーメンバーは以下です。

今年の予選会スタート時は23度でしたが、レース中に更に気温が上昇し、過酷な戦いとなりました。そうは言っても条件は全大学同じで、現在の結果を受け止めて、来年に繋げていきます。4年生が主体となった今回の予選会ですが、4年生が引退した後のチームでも更なる努力をします。



練習試合vsアマテラス

のみ
木質 優斗 (データサイエンス学部4年)
 さかきばらそうた
神原 颯太 (データサイエンス学部4年)
 さとう ふみあき
佐藤 史影 (補欠: 社会福祉学部4年)
 にしかわ ゆうた
西川 優太 (データサイエンス学部4年)
 みやおか りくと
宮岡 陸斗 (主将: データサイエンス学部4年)
 やまもと いつき
山本 樹 (データサイエンス学部4年)
 わたなべ そう
渡部 颯 (データサイエンス学部4年)
 わたなべ ひろと
渡辺 大仁 (データサイエンス学部4年)
 あだち はるな
足立 華紀 (データサイエンス学部3年)

ディビッド・グレ (補欠: データサイエンス学部2年)

はしもと しょうた
橋本 将汰 (データサイエンス学部2年)

うつのみや こうき
宇都宮 光希 (データサイエンス学部1年)

たかい こうき
高井 昂紀 (データサイエンス学部1年)

ちねん ゆうた
知念 優斗 (データサイエンス学部1年)



来年注目の3年生トリオ 左から山口凜、足立華紀、水品賢士郎

立正大学 総合成績32位

＼ 学生生活を充実させよう！／

CIRCLE 2025

立正大学サークル情報

本学には100以上の
様々な課外活動団体が活動しています。
今回は、「体育会籠球部」を紹介します。

CIRCLE INFO

体育会^{ろう きゅう ぶ}籠球部

少人数だからこそその学年を超えた チームワークがある。

体育会籠球部は、品川キャンパスの学生17名が所属する部活動です。関東大学バスケットボールリーグ5部に所属し、「4部リーグ昇格」を目標に掲げ、日々練習に励んでいます。

今回は、体育会籠球部の部長を務める^{まゆずみ} 海斗^{かい と}さん(経済学部4年)にお話を伺いました。

体育会籠球部の練習は、火曜日と土曜日の週2日の全体練習が中心で、その他の日には自主練習を行っています。チームとして戦術的な練習や基本スキルの向上に取り組み、先輩と後輩が協力し合い、共に成長する温かな雰囲気がこの部の魅力です。

チームの団結力と仲の良さが大きな強みである一方で、4年生が^{まゆずみ} 海斗^{かい と}さんを含めて2人と少ないため、当初は下級生との関係構築に苦労したといます。^{まゆずみ} 海斗^{かい と}さんは、これまでリーダー経験がなく、最初は不安もあったそうですが、「部員同士が互いに『吸収』し合い、話し合いの場を増やす

ことで、チームとして同じ方向を向くことができた」と振り返ります。

そんな体育会籠球部について、^{まゆずみ} 海斗^{かい と}さんは「人数は少ないですが、学部や学年を超えたバスケットボール好きな仲間が集まっているチームです。日々の練習や試合を通じて、共に戦えることが本当に楽しい」と笑顔で語ってくれました。

最後に、^{まゆずみ} 海斗^{かい と}さんから入部を考えるみなさん、読者のみなさんへのメッセージです。「この新聞を通じて、少しでも立正大学体育会籠球部に関心を持ってもらい、応援していただけたらうれしいです。バスケットボールが好きでも、大学で続けることに迷いや不安を感じる人もいるかもしれませんが、大学生活と両立しながら、仲間と本気でバスケットボールを楽しめる環境があります。少しでも興味がある方は、ぜひご連絡ください。お待ちしております。」



学生安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

パソコンでの登録やその他詳細については、
『ポータルサイト>Myツール>キャビネット>3. 学生生活支援>
6. 安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角)
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字)
パスワード:生年月日の下4ケタ(月日) (例)4月1日 → 0401



お問い合わせ 品川学生生活課 03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 048-536-6012

立正大学 by AERA

(制作・朝日新聞出版)を配布中!!

CONTENTS

巻頭インタビュー 徳重聡(俳優・タレント、卒業生)
特別インタビュー 大河ドラマを語る
卒業生探訪 八幡屋磯五郎代表取締役 室賀栄助、
パラアスリート 長谷川勇基 他

本ムックは書店で販売しておりません。
ご希望の方は、右記二次元コードからお申し込みください。
確認後、お送りさせていただきます。



大学公式Instagramをはじめました!!

大学公式Instagramをスタートしました! このアカウントでは、キャンパス内外での様々なイベント、学生の活躍、学内の最新情報をお届けします。また、学生のインタビュー、学部紹介、クラブ活動の様子なども掲載予定です。みなさまの日常に役立つ情報や楽しいコンテンツを発信していきますので、ぜひフォローして最新の情報をチェックしてください!



学園新聞Web版・公式サイト・SNSはこちらから



学園新聞
Web版



立正大学マガジン

検索



公式サイト



立正大学

検索



公式Facebook



公式X
(旧Twitter)



モラリすX
(旧Twitter)

セミナーやイベント情報、クラブ活動の様子などをSNSで配信中!
ぜひフォローしてチェックしてみてください。

本紙へのご感想を お待ちしております!

立正大学学園新聞アンケート

立正大学学園新聞編集委員会では、読者のみなさんの声をもとに、よりよい紙面づくりをしていきたいと考えております。今後の紙面づくりの参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。



アンケート